

宇都宮大学 UTSUNOMIYA UNIVERSITY

■峰キャンパス 〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350
■陽東キャンパス 〒321-8585 栃木県宇都宮市陽東7-1-2
URL:https://www.utsunomiya-u.ac.jp/



大学の理念とSDGsを連関させた
全学的な改革を展開し、持続可能性を地域とともに

世界基準のフィールド ～広大な農場・演習林で、持続可能な生産に挑戦する～

大学の特徴として、全国有数の面積を持つ附属農場・演習林が挙げられる。附属農場は、安心・安全な農業生産工程が評価され、穀物部門はASIAGAP(※1)、畜産部門はJGAP(※2)の認証を取得。附属演習林は、2014年に全国の大学に先駆けて緑の循環認証会議(SGEC/PEFC-J)の森林認証を受けている。この演習林では、住宅建材用の丸太のほか、バイオマス発電に必要な木材チップ用丸太を提供するなど、持続可能な森林経営につながる取り組みを数

多く展開。2050年までには、CO2の吸収によるカーボンニュートラルの達成も目指す。
農学部の学生はコア実習としてこれらのフィールドへ飛び出し、SDGsのゴール15「陸の豊かさを守ろう」の活動の意義を肌で学ぶ。未来を担う人材を育むために、宇都宮大学ならではの環境が重要な役割を果たしている。



※1 GFSI(Global Food Safety Initiative)から承認を受けたGAP認証制度
※2 持続可能な農場経営への取り組みに関し、日本の標準的な農場にとって必要な内容を網羅した基準

地域連携 地域に密着した教育・研究と人材育成の両面で社会に貢献

宇都宮大学は栃木県内のすべての自治体と連携協定を結び、多彩な取り組みを推進している。活動の実施にあたっては、大学の地域創生推進機構が窓口となり、各学部・部局への協力を要請。依頼内容に応じた割り振りを行うことで、スムーズな連携体制の確立が可能となっている。また、SDGsに関する教育・研究をまとめたSDGs事例集を配布するなどして、大学側の情報発信にも力を注いでいる。

こうした取り組みを契機に、2020年には那須塩原市の気候変動適応センターからの依頼で、環境省の「国民参加による気候変動情報収集・分析事業」を実施。大学からはさまざまな学部の学生・教員が参加し、市内各地で地球温暖化の影響についてヒアリング調査を行った。結果は市ホームページや広報誌など、多様な媒体に掲載され、学生と協働で取り組むSDGsとして高い評価を獲得し、2年目となる今年度も各プログラ

ムが進行中である。
地域を活気付けるには、地元で定着する人材の輩出も重要だ。宇都宮大学では、学部の学びを経て多くの学生が県内企業や自治体に就職している。県外から入学した学生が県内で就職するケースも多く、全体として流入超過の傾向がみられている。持続可能な地域社会の実現に向けて、今後も教育・研究、人材育成の両面で大学の貢献が求められる。

SDGsは「全ての国々が目指すべき国際目標」
文系・理系の枠を超えた取り組みを、SDGsの観点から紹介！
課題設定 課題解決
環境整備
まずは必要なのはSDGs関連事項の「見える化」。

ユニーク発想で実践的ロボティクス/フィールド・農業での社会実装チャレンジ
ロボティクスは、超難関課題の解決から社会実装(実用化・社会実装)まで幅広い活動の展開が視野です。ユニークな発想で課題を効率的に解決して実行するロボット(「ロボット」大学特許)。これならコンテストなど人混みで決選まで進めたいところをクリアできます。また、農業のロボットには世界特許取得。国内唯一ロボット導入によるグローバル化の「世界課題」を解決し、産学連携の推進に貢献しています。

環境系サークルと教職協働の取り組み事例(1/3)
1. 環境系学生サークルと教職協働プロジェクト
2. 環境系学生サークルと教職協働プロジェクト

宇都宮大学SDGs事例集

産官学連携 SDGsのゴール達成へ向けて産官学連携の体制を構築

企業の寄附による「宇都宮大学3C基金飯村SDGs推進奨励金」を原資に、SDGsに繋がる学生や教職員の取り組みを表彰する仕組みを2019年にスタート。賞の設けが起爆剤となり、多角的な活動がより活発化している。
また、県内各大学などが集まり設立された大学コンソーシアムとちぎでは、県・企業・大学の連携による「とちぎグローバル

人材育成プログラム」を実施。その中でもSDGsの教育推進が掲げられており、中心的な役割を担っている。
2021年3月には宇都宮大学のステークホルダー会議が発足。企業や自治体、地域住民、卒業生、在学生、保護者など、多様な大学関係者から意見を収集したうえで、今後の大学運営に反映することを目指す。



ゼミで子ども向けワークショップを開催

全学的意識づけのためのアクションプラン
「持続可能な社会の形成を促す研究を中心に、高水準で特色のある研究を推進」すること。これが、宇都宮大学が掲げる理念・方針です。2016年に策定された第3期中期計画では、ESD(持続可能な開発のための教育)のアクションプランとして、「ESD1GAPとちぎ」の構想を掲げました。2018年には関連する組織を発展的に改組し、学長直下の組織として「SDGsワーキンググループ」を発足。全学部からSDGsのスペシャリストを集め、ロードマップの作成やSDGs事例集の発行、必修科目の企画・運営など、多彩な活動を行っています。

各ゴールとの関連づけとアクティブ・ラーニング
教育面でも、SDGsの概念は広く取り入れられています。シラバスでは、すべての科目において各ゴールとの関連性を確認することが可能です。
加えて、教育目標で掲げる「行動的知性の養成」に向け、すべての科目でアクティブ・ラーニングを導入。例えば、オンデマンドの教材を用い、Web会議サービスを活用したディスカッションを行うブレンドディッドラーニングの形式を採用するな



シラバス検索画面

松金 公正 宇都宮大学 副学長
先進的な教育が行われているのは学部だけではありません。大学院は、従来の各研究科を統合し全学1研究科「地域創生科学研究所」に刷新。分子農学や光工学、ロボティクスといった、SDGs達成につながる科学技術イノベーション(STI for SDGs)の研究も活発化しています。専門領域の壁を越えた研究を推進し、分野融合的な知見の創出によって、持続可能で豊かな地域社会の実現を目指します。
地域とともに2030年へ。宇都宮大学はSDGsを単なるスローガンとはせず、学びの実質化を加速していきます。